

熊本高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	芸術
科目基礎情報						
科目番号	LK2109			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	人間情報システム工学科			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	【高校美術 1】日本文教出版；【高校音楽 I】改定版 Music View 教育出版					
担当教員	河田 勇一,筒井 周二					
到達目標						
美術について、履修の意義と目的を理解し、下記の項目を目標とする。 A-1. 観察による主題の新鮮な把握が出来る。色彩や形態を意図的に捉えて表すことが出来る。創造的に主題を追求し、工夫して表現が出来る。 A-2. 目的や条件、意図に応じた表し方、色彩、文字、材料や用具、制作方法の工夫が出来る。 A-3. 形態の捉え方を習得出来る。明暗、陰影、比例、均衡、動勢などの表現を工夫出来る。						
音楽について、履修の意義と目的を理解し、下記の項目を目標とする。 B-1. 音符、休符、リズム、拍子を理解できる。 B-2. 音部記号を理解し、階名読みができる。 B-3. 3度までの音程を理解し、コードネームの仕組みを理解できる。 B-4. 表情豊かに歌唱表現ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
美術評価項目1	美術を学ぶ目的を積極的に考え、自分なりの考えをもっている。		美術を学ぶ目的と考えを一定程度持ち合わせている。		美術を学ぶ目的が不明瞭である。	
美術評価項目2	モチーフとなる静物や風景といったものに関心をもち、配置や視点を工夫して構想を練り、主体的に主題を設定して造形的な効果を生かし、創造的に表現している。		モチーフとなる静物や風景といったものに関心をもち、配置を工夫、主題を追求し表現している。		対象となるモチーフを自由に組み立てて画面構成を考えることが出来ない。	
美術評価項目3	基礎的な色彩理論を理解し、配色がもたらす効果を知り積極的にデザイン作品に生かすことが出来る。		基礎的な色彩理論を一定程度理解し、デザイン作品に効果的な配色が出来る。		基礎的な色彩理論を理解できず、デザイン作品への効果的な配色が概して出来ない。	
美術評価項目4	モチーフの石膏形態を立体表現の諸要素である、形、明暗、マッサが作品に正確に描写されている。		モチーフの石膏形態を立体表現の諸要素である形、明暗、マッサが作品に一応描写されている。		立体表現に要する形、明暗、マッサが作品の描写表現に乏しい。	
音楽評価項目1	音符、休符の長さを理解し、躍動感のあるリズムを創作できる。		音符、休符の長さを理解し、拍子に合ったリズムを創作できる。		音符、休符の長さを理解できず、拍子に合わないリズムを創作してしまう。	
音楽評価項目2	楽譜のメロディーをリズム通り階名読みができる。		楽譜のメロディーの階名読みができる。		楽譜のメロディーの階名を間違えて読む。	
音楽評価項目3	音程を理解し、メロディーにコードネームが付されただけの楽譜で演奏できる。		音程を理解し、コードネームを見て使用される基本的な音が分かる。		音程が理解できず、コードネームを見ても使用される音が分からない。	
音楽評価項目4	クラス全員の前で、大きな声で表情豊かに歌うことができる。		クラス全員の前で、皆に聴こえるように歌うことができる。		クラス全員の前で、皆に聴こえるか聴こえない程のかほそい声で歌う。若しくは、音やリズムをはずしっ放しで歌う。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	芸術科目は美術と音楽の内容から構成される。美術の創造活動を通して美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすと共に、美術を愛好する心情を養う。美術の授業は基礎的な内容に重点を置いて実施する。音楽は1回授業の半分を歌の時間に充て、表現の楽しさ、喜びを味わわせる。残り半分を理論に充て、音楽の基本的内容について講義する。					
授業の進め方・方法	芸術科目は美術と音楽を半期づつ実施する。美術内容について、新鮮な感動、想像による主題の把握が出来るようにする。課題の中で多様な見方、表現方法の工夫が出来るようにする。意図に応じた材料や用具の活用が出来るようにする。音楽授業は、歌と基本的な音楽理論を中心に進める。教科書及び、教科書以外の学生が希望する楽曲も取り入れる。理論はポピュラー音楽に不可欠なコードネームについて講義する。					
注意点	美術と音楽の両方を勉強し芸術を学ぶ。音楽部分は歌唱教材が同時に鑑賞教材にもなる。鑑賞する際は私語を慎み静かに聴くこと。そして、曲のフィーリングやイメージ等をつかみ歌唱に生かすこと。理論は、小、中学校で学ぶ内容が土台にあるが、音程等は新たに学ぶことと思われるので、集中して聞くこと。学生が希望する楽曲も取り入れるので、積極的に取り組んでもらいたい。配布されたプリントは各自が管理し、授業に必ず持参すること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	身体の形について		クロッキーやデッサンを通して人体を描くことが出来る。	
		2週	幾何形体のデッサン①		明暗の階調を描くことが出来る。	
		3週	幾何形体のデッサン②		①をふまえて立体的な表現が出来る。	
		4週	描画材と表現		さまざまな絵の具について理解を深め、意図に応じた表現が出来る。	
		5週	人物画①		肖像画など様々に表現された人物画に関心がもてる。	
		6週	人物画②		①をふまえ友人をモデルに肖像画を描き、人物を表現する楽しさを感じとらせる。	
		7週	想像画について		さまざまな夢や空想といった心の中の作品を鑑賞し、作者の意図や心情を考えることが出来る。	
		8週	版画の技法について		版画の種類や技法を十分に理解できる。	
		2ndQ	9週	中間試験		

後期		10週	彫刻による表現について	ミケランジェロと運慶の作品を比較しながら、それぞれの作品の特徴について考えることができる。
		11週	デザインについて	「リ・デザイン」の作品を見て、作者の意図と表現の工夫などを感じることができる。
		12週	色彩の基礎①	色の仕組みや性質を知ることができる。
		13週	色彩の基礎②	①をふまえ配色の工夫がもたらす効果を積極的に作品に生かせることができる。
		14週	配色の魅力	意図した内容を伝えるために最も効果的な配色を考え工夫して表現ができる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却	
	3rdQ	1週	歌唱（半年を通じて） 音符について	元気に歌うことができる。音符の長さを理解できる。
		2週	音符、休符について	付点音符、休符の長さを理解できる。
		3週	音符、休符について	音符、休符を使ったリズムを手でたたいて表現できる。
		4週	拍子、リズムについて	拍子を理解し、リズム創作に挑戦。
		5週	リズム創作	創作したリズムを皆の前で発表する。（数人指名）
		6週	大譜表、音階	ト音記号、ヘ音記号を理解し、階名をドレミで読むことができる。
		7週	音程について（１）	音程の１度、２度を理解できる。
		8週	音程について（２）	音程の３度までを理解できる。
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	コードネームについて（１）	長三和音、短三和音を理解し、コードネームで表すことができる。
		11週	コードネームについて（２）	属七、短七、長七の和音を理解し、コードネームで表すことができる。
		12週	コードネームについて（３）	メロディーを移調し、コードネームもそれに伴って書き換えることができる。
		13週	歌唱実技テスト	
		14週	歌唱実技テスト	
		15週	定期試験	
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	美術試験	美術小テスト	音楽中間試験	音楽定期試験	歌唱実技	合計	
総合評価割合	40	10	25	10	15	100	
基礎的能力	10	5	25	10	15	65	
専門的能力	30	5	0	0	0	35	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	